

訪問看護ステーションで働く宮下さん。病院や施設で7年間の勤務を経て、2年前からこの仕事をしています。宮下さんは、学生時代に介護施設や養護施設などの福祉施設でボランティア活動をしていました。体を自由に動かせない人たちのために何か支援できることはないかと感じ、この仕事を始めたそうです。

「病院で勤務していた時は、いろいろな選択肢がある中で『自宅に帰りたい』という人がとても多く、訪問看護の必要性を強く感じました。」

市介護サービス機関連絡協議会
訪問看護部会

宮下 達也



訪問看護は、利用者の自宅に赴き、看護やリハビリを提供すること。宮下さんのステーションでは、体調管理や介護予防、医療的な処置、看取りなどを行っています。

「訪問看護は、利用者やその家族と距離が近く、関われる時間が長い。生活環境やニーズに合わせてサービスを提供できるところが、魅力であり1番のやりがいです。利用者を看取り、家族から感謝の言葉をいただいた時は、適切な支援ができていたのかなと思ひ、やっていて良かったなと感じました。」

治療の場である病院と療養の場である在宅では、もちろんできることに違いがあります。家ごとの限られた環境でサービスを提供しなければならないからです。

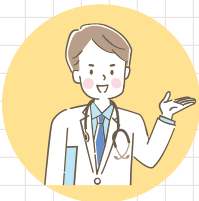
「それでも、『自宅で暮らしたい』という利用者やその家族の思いが1番大切だと思うので、その思いに寄り添えるよう、日々利用者やその家族と向き合っていきたいですね。」

訪問看護ステーションとは？

病気や障がいのある方が住み慣れた自宅で療養生活を送れるように、訪問看護サービスを提供する地域の拠点です。本市には9カ所あり、看護師などが所属しています。



訪問看護を受けるには



病気や介護認定の有無などにより、相談先が異なります。まずは、かかりつけ医やケアマネジャー、訪問看護ステーションに相談してください。



詳しくは、直接または電話で地域包括ケア推進室へ。